



鶺鴒・鷺佐渡まで追へと鳥追は
蝶生まれ鏃の形の影を置く
清水道徑
初雷やくくと傀儡の指動き
川村五子
今に見ろといふ今の来ず初詣
宮地良彦
はやばやと稲荷狐に雪が降る
永島理江子
雪原の一本の木のわが化身
小熊里利
弾初や祖先辿れば琵琶法師
西澤日出樹
雪ざらし楮に余罪あるごとく
今井愛子
埋火を起こし刀匠身づくろひ
広枝千鶴子
うすらひや寄木細工に似る日暮
島田葉月
可惜夜や海中めける雪の街
石井立文
あたたかや硝子引戸の文具店
小宮山秀子
風花や人老ゆること唐突に
降籬 康
とつぷりと鍋満たしをり寒月光
三品吏紀

寒の海猫人に懐かぬ狐の目
許勢元貞

糸暖簾うかどくぐれば逆さ寒
伊藤由希子
嵌め殺しの窓の青さや多喜二の忌
穂苺真泉
凍鶴の己が鼓動をひたに抱く
西牧千恵子
明けの海重なり開く鳥の水尾
小口洋子
やどりぎを髻華に乙女や春の闇
佐藤映二
リラ冷えや考へぬため鍋磨く
高橋節子
湧き水よ銀忌の空の真青なる
北浦 深
亡き夫の力を借りて雪を搔く
保坂季泉
耳朶を触り日永を確かむる
柿谷有史
ぱんぱんの鰯引き抜かる黝き海
窪田英治
肝据わる寒芹の根を洗ひたり
布山千土里

*
生計尽き幼女の身売りアフガン凍つ
瀬野 史
街路樹の拳固めて春を待つ
平松枝里子
田村麻呂征東の道山桜
上石哲男
大らかな祖母の百一春隣
平林朋紀